# 日本人と西洋スポーツとの出会い
# —明治期の神戸におけるスポーツ空間、六甲山・東遊園地を例として—

スポーツ文化　研究領域
5023A072-7　YANG JIKANG　　研究指導教員：川島浩平　教授

【目的】

本研究は、明治時代における外国人と日本人の活動を六甲山および東遊園地を事例として取り上げ、当時の歴史背景や社会環境を参照しつつ、日本人がスポーツを取り入れた場所がどのように発信され、発展していったのかを考察する。また、西洋スポーツが当時の神戸における各階層の人々にどのような影響を与えたのか、さらに明治期における西洋スポーツが行われた場所を研究対象とする意義についても検討する。これらの場所の形成要因および各階層の日本人に対するスポーツ活動の影響を明らかにする。

【方法】

本研究は、明治時代に発行された英字および邦字新聞、明治期における神戸のスポーツに関する書籍、神戸市文書館に保存された居留地スポーツ史に関する文書、神戸市立図書館に所蔵されている神戸市史・兵庫県史などを中心に分析および記述を進める。現存するクラブ（Kobe Regatta & Athletic Club、Kobe Golf Club）における文献調査の成果、並びにそこで閲覧した歴史資料や文献も併せて調査する。

【内容】

神戸は明治時代に欧米に開かれ、市街地の背後に六甲山系が広がる地理的条件に恵まれていた。明治期に居留外国人から始まったゴルフや登山などの近代スポーツが市民生活に浸透し、これは神戸の大きな特徴である（棚田，1976）。各スポーツクラブは西洋スポーツに関心を示し、神戸に設けられた施設で活動するようになった。1870 年、A・C・シムの提唱により、神戸外国人居留地で神戸リガッタ・アンド・アスレチック・倶楽部（KR&AC）が発足した（神木ら，1993）。1874 年には日本政府が外国人と日本人が共用する公園としてグラウンド設置を認め、1877 年に完成した公園（現：東遊園地）はサッカーやラグビーを通じて両者の交流の場となった。当時、多くの日本人がこれらのスポーツに触れ、居留地のグラウンドでの試合に参加するなど積極的に西洋スポーツを受け入れた。神戸居留地のスポーツ空間は、近代における東西文化の衝突から生まれた新しい公共空間である。外国人の進出により、西洋の都市公共空間がもたらされた一方、資本主義のレイヤーにおける「疎外された日常」と、帝国主義のレイヤーにおける「和と洋」「伝統と現代性」の間に対立が生じた。資本主義的生産関係は仕事と余暇の分離をもたらし、外国文化に触れた日本人の余暇意識が生まれた結果、新たな様式のスポーツ空間が形成された。

【考察】

河合（1990）は、東遊園地の造成について、神戸の居留民が「外国人としての共同空間」を求め、その欲求がスポーツ活動や公園デザインに反映された点を指摘する。また、クラブが提供したスポーツが居留民のリクリエーションとして支持を得て、居留地会議を動かし、東遊園地のデザインに影響を与えたと述べる。これにより、日本人がこの空間で外国人とスポーツ活動を行う基盤が築かれる。一方、上垣ら

(1990)は、六甲山におけるリゾート開発が外国人の価値観に基づいて行われ、日本に外来のレクリエーション思想が定着し、六甲山の新たな価値を認識させる契機となったと指摘するが、先住民日本人や外国人の生活変化については触れていない。この比較を通じ、西洋スポーツ文化と神戸の社会・自然環境の相互作用による独自の文化形成過程が明らかになる。

【結論】

先行研究は、神戸におけるスポーツ発展の歴史を考察し、日本においては神戸が発祥のスポーツにも、スポーツクラブの創設と発展などを明らかにしてる。そして、居留外国人による神戸でのスポーツの導入経緯を考察し、居留地におけるスポーツの発展の軌跡と歴史的背景を明らかにした.これらの研究では、居留地において外国人がどのようにスポーツを行っているかについて詳細に書かれているが、日本人がいつこれらのスポーツを取り入れたのか、また、それぞれのスポーツが日本人にどの程度受容されていたのかなどの部分は曖昧である。さらに.これまでの研究は英字新聞の記録などを参考にしており、居留地の外国人と居留地外の日本人との対立があったことや当時の日本人の西洋スポーツに対する抵抗感についても触れられていない.本研究の問いは神戸を発祥として普及した西洋スポーツは、このような日本のスポーツ史の背景において、どのように受容され、どのようにして発展していったのかということである。また、当時のスポーツ空間が神戸の人々にどのような影響を与えたのかという問いに対しては、先行資料を中心に入手可能な資料を精読し、重要な情報を抽出してまとめ、居留地外の日本人社会に着目しながら西洋スポーツが日本人に普及する空間の記録を整理し、当時の人々の活動の実像を復元していく。また、より日本人の影響力を象徴するスポーツを選び、そのスポーツ自体の特徴や普及しやすさなどを分析していく予定である。そして、当時の日本人が住んでいた地域や、雑居地の生活環境、習慣、ライフスタイルに注目しながら、外国人や外国文化に対する地元日本人の意識を探る。さらに重要な研究要素として、当時の社会環境を考慮する。

明治期の神戸のスポーツ史は、主に書籍による記録が中心であったため、その内容の多くは当時起こった歴史的出来事のまとめであり、神戸のスポーツ史に対する評価や結論は少ない。本論文は、先行研究で取り上げられていない部分を補足するにとどまっており、「六甲山」と「東遊園地」という二大スポーツ空間が、その誕生から形成されるまでの歴史的経過を再構築し、神戸のスポーツ史研究に新たな視点と切り口をもたらすことを試みる。